

事例番号:380012

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第二部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 6 日

1:45 破水のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 6 日

3:00 陣痛開始

9:02 胎児機能不全のため子宮底圧迫法により経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 6 日

(2) 出生時体重:2500g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.13、BE -6mmol/L

(4) Apgarスコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 7 ヶ月 寝返り、座位保持できず

生後 9 ヶ月 精神運動発達遅滞の診断

(7) 頭部画像所見:

生後 10 ヶ月 頭部 MRI で前頭葉・側頭葉が小さく脳室拡大や脳溝が目立ち、小脳の脳溝の一部も目立つ所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 1 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因を解明することが極めて困難な事例であり、原因は不明であると考えられる。ただし、先天異常の可能性も否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 38 週 6 日、破水で来院した際の対応(内診、破水と判断し入院管理としたこと、抗菌薬投与、分娩監視装置装着)は一般的である。

(2) 胎児心拍数陣痛図上、胎児機能不全(胎児心拍数波形レベル 3)と判断し、排露発露の状況で子宮底圧迫法を実施したことは一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後の新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。